

令和8年度 i-保育園 事業計画

◆法人の年度方針

・個々の職員の専門職として『向上心』・『探求心』・『人間性向上』を源泉とする各業務を多面的に見えるかを推進する。
誇りある栄誉とそれに伴う実益を得られる社会評価を得る。

◆園の年度方針

『選ばれる保育園』となる為の多機能サービスを徹底思考をしていく。

課題	具体的な取り組み方法	達成目標	達成度の指標	期限
保育士の業務の簡素化を求めるばかりに毎年同じカリキュラム・同じ絵画・同じ制作・同じ公園で遊ぶ傾向が見られるクラスがある。同じ子どもは誰一人としていない。個々の子どもの特徴を捉え、毎年進化した保育を実現することが必須。	絵画研修・制作研修・公園の下見・全体のイベントの司会などを行う事で、保育の引き出しを増やし、イベント職員自身が構成の組み立てを考えられる経験を増やしていく。	子ども一人ひとりの姿を捉え、発達に応じた環境と関わりを創造する保育を実践する	日々の子どもの観察・記録・振り返りを大切にし、子どもの姿に応じて環境や保育内容を工夫し続ける。	前期
『保育のスマート化』を進めた結果、職員の技量の発展が滞っている様に感じる。『先輩・同僚に頼る保育』ではなく、『自分自身はどうしたいのか』『どうすべきなのか』をイメージし、弱みを補うための環境づくりが必要。保育士と語り合いを高めあえる同士であって欲しい。	職員一人ひとりが「主体的に学び・考え・伝え合える」保育が提供できるよう研修を受け、弱みを補い、強みを更に強みとなる様に目標をたて取り組む。	主体的に学び・考え・伝え合う保育者集団を育てる	自ら課題を見つけて学びあい、保育の工夫や実践を記録・共有・見える化することで、専門職としての力を高める。	年度末
先輩保育士が主導となって取り組むことが多いため、今の時代の流れにあった内容を若手を中心に取り組んでもらいたい。そうすることで発信に対する評価が上がりやすくなると想定されるとともに、若手の育成にもつながると考える。	若手が得意と思われるインスタ等SNSを活用し、外部に発信ができるものを考え発信をする。	保育の実践を外部に発信し、園の価値と社会的評価を高める	日々の保育の取り組みや子どもの育ちをコドモン・HP・SNS・公開保育などで、継続的に発信する仕組みをつくる。	前期